

# 教育から就業への移行実態調査報告書 IV

## 調査の概要：

- ・全国 29 都道府県の 34 親の会の会員（保護者）629 人からの回答を得た。本人からも 509 人の回答を得た。そのうち本人と保護者の両方から回答を得たのは 499 人。 (p3,p114)
- ・本人の平均年齢は 25.8 歳。男女比は男性が約 8 割。 (p3,p4)
- ・本人の「現在の状況」は、「就業・障害」と「支援事業所」が増えている。 (p8)
- ・障害者手帳の取得比率は 4 回の調査で調査毎に高くなり、内訳としては精神障害者保健福祉手帳の比率が増えている。 (p10)
- ・障害者基礎年金の受給率も調査毎に高くなり、今回の調査では対象者の 5 割を超えた。 (p15)
- ・高等教育への進学比率も高くなる傾向にあり、内訳としては大学の比率が増えている。 (p21)

## 問題 （冊子の中から答えを見つけよう）

- ・大学に進学した人の「現在の状況」は、「就業・一般」と「就業・障害」のどちらが多い？ (p23)
- ・「就業・一般」と「就業・障害」はどこが違う？
  - ・転職に繋がりにくいのは？ (p66)
  - ・正社員になりやすいのは？ (p66)
  - ・労働時間が長いのは？ (p67)
  - ・賃金が高いのは？ (p67)
- ・「就業・障害」で、「特例子会社」と「それ以外」はどこが違う？ (p52)
- ・本人が家族（親）と暮らしている比率は？ (p86)
- ・本人が保護者と同一都道府県に住んでいる比率は？ (p115)
- ・「保護者の心配」は何と関係がありそう？ (p88～p92)
- ・地域差の差（北海道、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、愛知県、大阪府、兵庫県、福岡県）
  - ・障害者手帳の取得率が高いのは？ 低いのは？ (p99)
  - ・障害者基礎年金受給率が高いのは？ 低いのは？ (p100)
  - ・「現在の状況」で「就業・一般」比率が高いのは？ 低いのは？ (p104)
  - ・「現在の状況」で「就業・障害」比率が高いのは？ 低いのは？ (p104)
  - ・「就業・障害」で特例子会社比率が高いのは？ 低いのは？ (p107)
- ・本人が高等教育に進学して良かったと思ったことは？ つらかったことは？ (p117)
- ・働いているか働いたことがある本人が、職場でうれしかったことは？ (p121)

※ 危険率について <危険率 1%>、<危険率 5%>

「危険率 1%」とは、調査から得られた結果の確からしさを表していて、「危険率 1%で A である」ということは、同じ調査を繰り返した場合、「A でないという結果になるという割合が 100 回に 1 回（1%）以下である」ということを意味します。「危険率 5%」も同様です。